

developed, the subfloral innovation always develops below the bracts that are of 3 pairs each gynoecium, the leaf-lobe has an arched and more or less auriculate dorsal base, and the stylus is filiform and 3-4-celled.

In the present species the subfloral innovation occasionally develops between female bracts that are often in 2-pairs each gynoecium and the keel of leaf-lobe connecting with the lobe is 0.1-0.15 mm long. In other species the keel is much shorter or nearly absent except for the members of subgen. *Chonanthelia*, and the subfloral innovation usually develops below the gynoecium.

Literature cited

- Inoue, H. (1969). Hepaticae, in Inoue & Iwatsuki: Bryophytes of the Bonin Islands and the Volcano Islands (1). Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo 12: 291-309.
 — (1970). — (3). Ibidem 13: 475-489. — (1984). — (4). Bull. Nat. Sci. Mus. Ser. B 10: 101-106.

* * * *

岩月善之助博士が1980年8月小笠原諸島に採集された蘚苔類の中からヤスデゴケ属の標本を筆者に提供された。そのうち1新種 (*Frullania zennoskeana*) を認めたが、未発表のままであった。昨年南硫黄島調査の採品のうち蘚苔類を井上浩博士が担当されたが、その報告に本種がのせられている。本種は本州西南部から四国、九州に産する *F. pedicellata* に近縁で、同種の祖型が小笠原で分化したものとも考えられるが、葉下片のキール（上片との連結部）が長く、新枝が雌苞葉間から出ることがあり、葉上片背面基部がふくれず、stylusが10細胞以上の基部と3-4細胞の頂刺から成る点などで区別される。

□神奈川県植物ときのこの会（編）：神奈川の植物ときのこ 227 pp. 1984. 暁印書館，東京。¥2800。「写真で綴る文化シリーズ・神奈川2」として、神奈川県在住の植物研究家15名が、神奈川県内の植物的自然について取りまとめたもの。県内の植生概観を大場達之氏がまとめ、これにつづいて種子植物、シダ類、蘚苔類、海藻類、地衣類、菌類（きのこ）を取り扱っている。その扱いは普通の植物誌的方法ではなく、例えば種子植物のアンタバの項には「明日になるとまた若葉のである」という副題がつけられているように、県内の植物の中から各群で特徴的なものを選び、写真、随筆的解説をつけたものである。植物に親しみをもたせるには格好の一冊である。（井上 浩）